

証券コード：4569

健康はキョーリンの願いです。

第61期 中間株主通信 | 2018年4月1日～2018年9月30日

*Kyorin* 



キョーリン製薬ホールディングス株式会社

## キョーリン製薬グループが目指す企業像と価値創造プロセス

キョーリン製薬グループは、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し届けることが使命であり、自分たちの価値創造の源泉であると考えています。私たちは医療用医薬品事業を中核とし持続的な成長を目指しています。一方で、多様な健康ニーズへの対応、医療用医薬品事業の成長補完の観点からヘルスケア事業を複合的に組み合わせた事業展開をしています。ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点も合わせ、社会的課題への対応を行いながら、企業価値の向上に取り組んでいます。



当社グループでは、中核子会社である杏林製薬（株）の創業100周年に当たる2023年を見据えた長期ビジョン「HOPE100」を2010年に策定しました。最終年度までの期間を3つのステージ（ステージ1：2010～2015年度、ステージ2：2016～2019年度、ステージ3：2020～2023年度）に分け、中期経営計画「HOPE100－ステージ2－」を現在推進しています。

## 私たちキョーリン製薬グループは、新たな発想で「変革」に挑戦し、 長期ビジョン「HOPE100」の実現を目指します。



代表取締役社長 穂川 稔

平素よりキョーリン製薬グループに対しまして格別のご理解  
とご支援を賜り、誠に有難うございます。

当社グループの2018年4月1日から2018年9月30日まで  
の第61期第2四半期(以下「中間期」という)につきまして、事業  
の概況をご報告申し上げます。



当社グループは、「キョーリンは生命を慈しむ心を買き、  
人々の健康に貢献する社会的使命を遂行します。」という  
企業理念の具現に向け、グループの中核子会社である杏林  
製薬(株)の創業100周年(2023年)を見据えた長期ビジョン  
「HOPE100」を策定し、中長期的な視点で企業価値向上に  
努めております。

医療用医薬品業界では、社会保障費の財源確保を背景と  
した医療費の効率化や薬剤費抑制策の推進等、これまでに  
経験したことの無い大きな変化が想定以上の速さで進んで  
います。このような環境の中で、持続的な成長を実現して  
いくには、外部環境の変化を先取りし、より早く適切に対応  
することが必要です。さらに新しい成長シナリオを描き、  
自主的・自律的に行動することも重要と考えます。

当社グループは、現在、「HOPE100-ステージ2-(2016～  
2019年度)」を策定し、さらなる持続成長と中長期的な価値の  
創出に努めています。ステージ2におけるステートメントを  
「長期ビジョン実現に向けて、変革(変化と革新)を行い、持続  
成長を図る」とし、2018年度は、全社員の力を結集し、スピー  
ディな変革を実行するとともに、成長基盤の強化と収益力の  
向上に最大限注力し、成果目標の達成に邁進いたします。

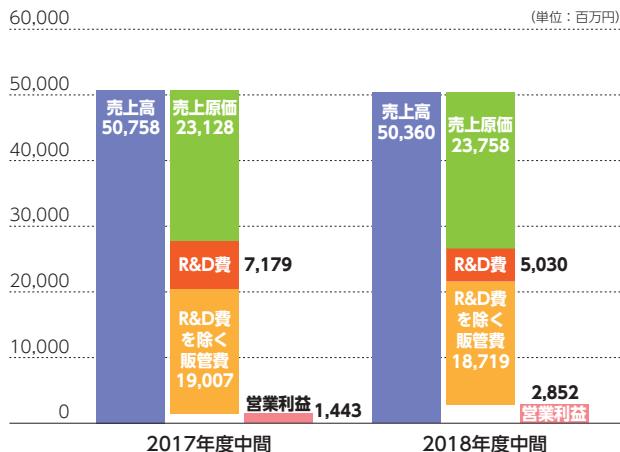
引き続き、なお一層のご理解とご支援を賜りますよう  
よろしくお願い申し上げます。

## ■当中間期の概況

当中間期における国内医薬品業界は、薬剤費・医療費抑制のための諸施策が推進される中、2018年4月に薬価制度の抜本改革(薬価改定率 業界平均7.5%)が実施された影響により市場成長は低位に推移しました。

このような厳しい環境下、当社グループは長期ビジョン「HOPE100」の実現に向けて、2016年度を初年度とする中期経営計画「HOPE100－ステージ2－(2016～2019年度)」のもと、2018年度は経営方針に「スピーディな変革の実行」を掲げ、成長基盤の強化と収益力の向上に邁進しました。中核事業である医療用医薬品事業においては、グローバルを見据えたオリジナル新薬の創製、切れ目のない新薬の創出、新薬による市場の創造に、これまで以上のスピード感を持って取り組みました。また周辺事業での成長加速化・収益力向上及びローコストオペレーションを推進し、成果目標の達成とステークホルダーの皆さまからの支持・評価の向上に努めました。

### 損益の概要



当中間期の業績は、医療用医薬品事業では後発医薬品の売上は増加しましたが、2018年4月に実施された薬価改定(杏林製薬㈱7%台)の影響により新医薬品(国内)の売上は減少しました。医療用医薬品事業全体としては前年同期を下回る実績で推移しました。一方、ヘルスケア事業の実績は横ばいで推移しました。この結果、当中間期の業績は、503億60百万円と前年同期比3億98百万円(前年同期比0.8%減)の減収となりました。

利益面では、薬価改定による売上原価率の上昇等により売上総利益が前年同期に対して10億27百万円減少しました。販売費及び一般管理費につきましては、費用削減に取り組み、前年同期に対して24億37百万円減少(内、研究開発費21億48百万円減)し、営業利益は28億52百万円(前年同期比97.6%増)となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、22億17百万円(前年同期比78.8%増)となりました。

なお、当中間配当金につきましては、1株につき30円をお支払いさせていただきます。

## 医療用医薬品事業

### ■新医薬品(国内)

薬価制度抜本改革の進展により国内医療用医薬品の市場構造が急速に変化する中、杏林製薬㈱は特定領域(呼吸器科・耳鼻科・泌尿器科)の医師、医療機関に営業活動を集中するFC(フランチャイズカスタマー)戦略をベースとして、独自のエリ



喘息治療配合剤  
フルテフォーム



持続性選択H<sub>2</sub>受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤  
デザレックス

アマネジメントを積極的に展開しました。当中間期におきましては、中期経営計画の重点戦略に掲げる「新薬群比率の向上」の実現に向けて、主力製品である喘息治療配合剤「フルティフォーム」、アレルギー性疾患治療剤「デザレックス」及び過活動膀胱治療剤「ウトリス」の普及の最大化に取り組みました。またMSD(株)の関連会社から国内独占販売権を取得した定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤「ナゾネックス点鼻液」の販売を2018年8月より開始し、新医薬品の実績拡大を図りました。他方、長期収載品である気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「キプレス」、気道粘液調整・粘膜正常化剤「ムコダイン」、潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤「ペンタサ」等の売上は減少し、売上高は334億24百万円(前年同期比3.0%減)となりました。

### ■ 新医薬品(海外)

広範囲抗菌点眼剤「ガチフロキサシン(導出先:米国アラガン社)」に関わる収入が前年同期を上回ったことから、売上高は6億04百万円(前年同期比15.5%増)となりました。

### ■ 後発(ジェネリック)医薬品

モンテルカスト錠「KM」(杏林製薬(株)及びMSD(株)が販売している「キプレス」)及び「シングレア」のAG<sup>(※1)</sup>の売上の増加及び当中間期に販売を開始した追補収載品の寄与等により、売上高は135億52百万円(前年同期比4.2%増)となりました。

※1:オーソライズド・ジェネリックの略。先発医薬品と全く同じ成分(含む、原薬や添加物、製造方法)で製造した後発医薬品



過活動膀胱治療剤  
ウトリス



定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤  
ナゾネックス



環境除菌・洗浄剤  
ルビスタ



哺乳びん殺菌消毒剤  
ミルトン

以上の結果、当セグメントの売上高は475億81百万円(前年同期比0.8%減)となり、セグメント利益は26億73百万円(前年同期比118.7%増)となりました。

生産部門の取り組みとしては、2017年10月に設立した新生産子会社キョーリン製薬グループ工場(株)(東京都千代田区)に、当社連結子会社である杏林製薬(株)能代工場、キョーリン リメディオ(株)生産本部及びキョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)<sup>※2</sup>を2018年4月1日に統合し、同日より本格稼働いたしました。中期経営計画の重点戦略である「ローコスト強化:グループ内最適化によるコスト構造の変革」のもと、キョーリン製薬グループ工場(株)に生産機能を集約し、グループ内生産の全体最適化とコスト低減を強力に推進します。

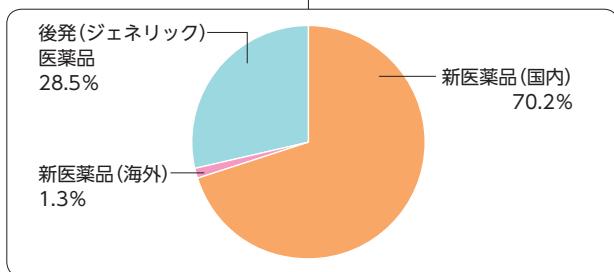
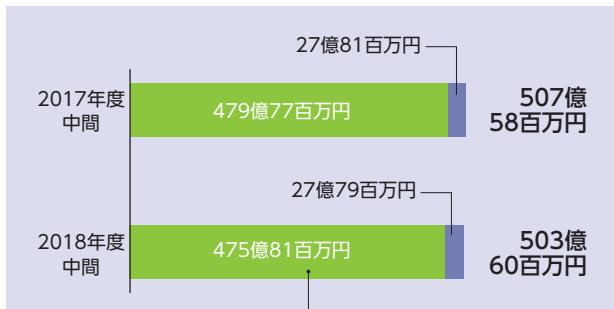
※2:キョーリン製薬グループ工場(株)(滋賀県甲賀市)は、吸収合併により消滅会社となりました。

## ヘルスケア事業

中期経営計画に掲げる育成戦略「環境衛生の事業成長と既存事業との連携強化により核となる事業を作る」を推進し、主要製品である環境除菌・洗浄剤「ルビスタ」及び哺乳びん・乳首・器具等の消毒剤「ミルトン」は前年同期を上回る実績で推移しましたが、その他製品の売上は減少しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は27億79百万円(前年同期比0.1%減)となり、セグメント利益は26百万円(前年同期比64.3%減)となりました。

セグメント別売上高 ■ 医療用医薬品事業 ■ ヘルスケア事業



## 研究開発の状況

新薬メーカーにとっては、未だ数多く存在するアンメットメディカルニーズに応え、世界の人々の健康に貢献する革新的な新薬を継続的に創出し、届けることが使命です。杏林製薬(株)は、オリジナル新薬の創製こそが真の成長の原動力であり、持続成長に結びつくと認識に基づき、わたらせ創薬センターとActivX社の連携による自社創薬に国内外の製薬企業、アカデミア、ベンチャー企業とのオープンイノベーションを加え、さらなる創薬基盤の強化に取り組んでいます。創薬テーマの選択と集中を進め、重層的なプログラム開発に取り組むとともに外部創薬テーマの積極的な探索・導入を行うことで、ファースト・イン・クラス創薬に向けて、確実に歩みを進めます。

## 国内開発の進捗状況

遺伝子治療薬「Ad-SGE-REIC」の悪性胸膜中皮腫を対象とするPh II 臨床試験を2018年6月より、夜間多尿による夜間頻尿治療剤「KRP-N118」の後期Ph II 臨床試験を同8月より開始しました。選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤「ベオーバ(KRP-114V)」につきましては、同9月に厚生労働省より製造販売承認を取得いたしました。

## 創薬研究

杏林製薬(株)では、わたらせ創薬センターとActivX社の連携のもと、既存の創薬プラットフォームの活性化を進めるとともに、新技術(ペプチド、遺伝子治療など)の応用と育成に努めました。

また、杏林製薬(株)では、創薬研究におけるオープンイノベーションの一環として、当中間期より公益財団法人微生物化学研究会微生物化学研究所との共同研究を開始いたしました。当社グループの重点研究領域の一つである感染症における創薬力の強化を図ります。

## 通期の見通し

現時点におきまして、2018年5月10日に公表しました通期の業績予想を変更しておりません。

2019年3月期連結業績予想(通期) (2018年5月10日公表)

売上高	1,144億円 (前期比3.4%増)
営業利益	86億円 (前期比2.5%減)
経常利益	92億円 (前期比1.6%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	66億円 (前期比0.4%増)

(2018年11月5日現在)

## Ph (フェーズ) I ~承認 (上市)

製品名・開発コード	薬効	起源	特徴	開発段階
				フェーズⅠ フェーズⅡ フェーズⅢ 申請 承認
ペオーバ (KRP-114V)	過活動膀胱	米国 メルク社	<ul style="list-style-type: none"> <li>従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される</li> <li>β3作動薬として、薬物相互作用が少ない</li> <li>本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある</li> </ul>	国内 2018年9月
KRP-AM1977X (経口剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認 (市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症)</li> <li>呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す</li> <li>血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性</li> </ul>	国内 2017年4月
KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	<ul style="list-style-type: none"> <li>高い安全性が期待される</li> <li>同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い</li> </ul>	国内 申請準備中
KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	国内 2017年3月
KRP-108P	気管支喘息	英国 ベクチュラ社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	国内 2017年6月
KRP-N118 (SK-1404)	夜間多尿による夜間頻尿	(株)三和化学 研究所	<ul style="list-style-type: none"> <li>バソプレシンV2受容体のアゴニストで、腎臓の集合管で水の再吸収を促進して尿量を減らす (抗利尿作用)</li> <li>有効性と安全性に優れた夜間多尿に伴う夜間頻尿治療薬として期待されている</li> </ul>	国内 2018年8月
Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	国内 2018年6月
<b>【導出品】</b>				
FPR2作動薬プログラム	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	海外 米国プリストル・マイヤーズスクイブ社

### 開発プロセスの概要

#### フェーズⅠ

##### (第Ⅰ相臨床試験)

同意を得た少数の健康人志願者を対象に、安全性のテストを行う臨床試験

#### フェーズⅡ

##### (第Ⅱ相臨床試験)

同意を得た少数の患者さんを対象に、有効で安全な投薬量や投薬方法などを確認する臨床試験

#### フェーズⅢ

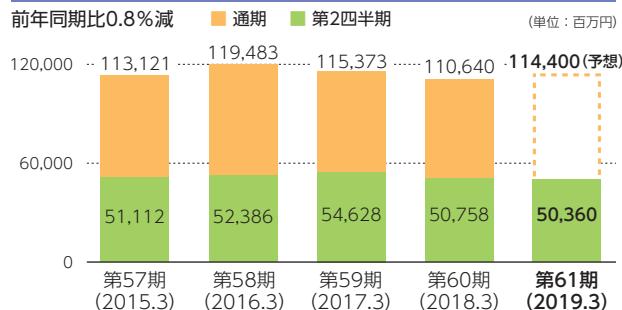
##### (第Ⅲ相臨床試験)

同意を得た多数の患者さんを対象に、既存薬などと比較して新薬の有効性及び安全性をチェックする臨床試験

#### 申請

有効性・安全性が確認された新薬の製造販売承認を厚生労働省に申請

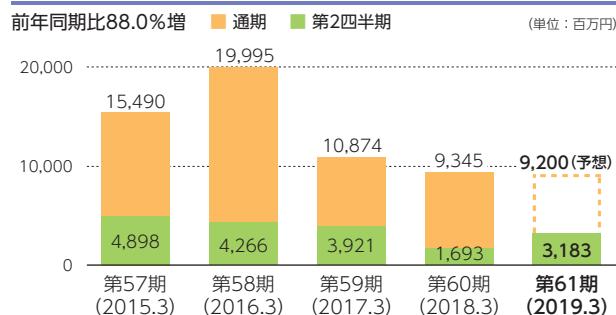
**売上高** 50,360百万円 ▶ 通期予想114,400百万円



**営業利益** 2,852百万円 ▶ 通期予想8,600百万円



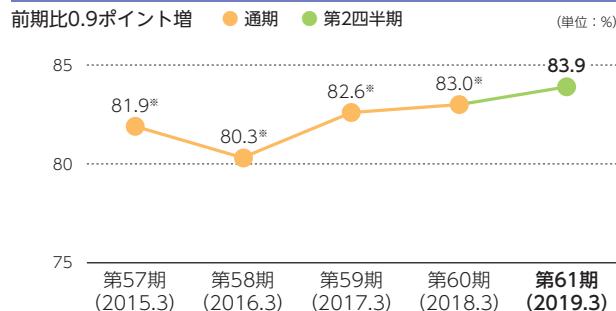
**経常利益** 3,183百万円 ▶ 通期予想9,200百万円



**親会社株主に帰属する  
四半期(当期)純利益** 2,217百万円 ▶ 通期予想6,600百万円



**自己資本比率** 83.9%



**配当金** 30円 ▶ 年間配当金予想75円



\*税効果会計に係る会計基準一部改正により遡及適用後の数値を基に算出しております。

四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

	前期末* 2018年3月31日現在	当第2四半期末 2018年9月30日現在
<b>【資産の部】</b>		
<b>流動資産</b>	<b>119,946</b>	<b>116,917</b>
<b>固定資産</b>	<b>76,789</b>	<b>79,338</b>
有形固定資産	21,901	21,730
無形固定資産	1,750	2,505
投資その他の資産	53,137	55,102
<b>資産合計</b>	<b>196,736</b>	<b>196,255</b>
<b>【負債の部】</b>		
<b>流動負債</b>	<b>25,134</b>	<b>22,724</b>
<b>固定負債</b>	<b>8,303</b>	<b>8,912</b>
<b>負債合計</b>	<b>33,438</b>	<b>31,636</b>
<b>【純資産の部】</b>		
<b>株主資本</b>	<b>155,489</b>	<b>155,035</b>
資本金	700	700
資本剰余金	4,752	4,752
利益剰余金	152,542	151,783
自己株式	△2,506	△2,200
その他の包括利益累計額	7,808	9,582
<b>純資産合計</b>	<b>163,297</b>	<b>164,618</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>196,736</b>	<b>196,255</b>

\*税効果会計に係る会計基準一部改正により遡及適用後の数値を記載しております。

四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	当第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
<b>売上高</b>	<b>50,758</b>	<b>50,360</b>
売上原価	23,128	23,758
<b>売上総利益</b>	<b>27,630</b>	<b>26,602</b>
販売費及び一般管理費	26,186	23,749
<b>営業利益</b>	<b>1,443</b>	<b>2,852</b>
営業外収益	325	372
営業外費用	75	42
<b>経常利益</b>	<b>1,693</b>	<b>3,183</b>
特別利益	627	2
特別損失	420	73
<b>税金等調整前四半期純利益</b>	<b>1,900</b>	<b>3,111</b>
法人税、住民税及び事業税	487	611
法人税等調整額	172	282
<b>四半期純利益</b>	<b>1,240</b>	<b>2,217</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,240	2,217

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

	前第2四半期 2017年4月1日から 2017年9月30日まで	当第2四半期 2018年4月1日から 2018年9月30日まで
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>7,260</b>	<b>7,297</b>
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△3,928</b>	<b>△2,185</b>
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△2,685</b>	<b>△3,627</b>
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△9	205
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	637	1,689
現金及び現金同等物の 期首残高	42,499	42,971
現金及び現金同等物の 四半期末残高	43,137	44,660

■ 会社概要

商号	キョーリン製薬ホールディングス株式会社 (英文: KYORIN Holdings, Inc.)
事業内容	創薬ビジネス・医薬事業等を営む子会社を中心とするグループ全体の経営戦略機能を担う持株会社
本社所在地	〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地
設立	1958年(昭和33年)
資本金	7億円
従業員	112名(連結2,334名)

■ グループ会社(連結子会社)

- 杏林製薬株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン リメディオ株式会社(石川県金沢市)
- キョーリン メディカルサブライ株式会社(東京都千代田区)
- キョーリン製薬グループ工場株式会社(東京都千代田区)

■ 株式の状況

発行可能株式総数	297,000,000株
発行済株式の総数	74,721,142株
	(自己株式226,486株を除く)
当中間期末株主数	6,344名

■ 役員

取締役及び監査役	穂川 稔	がわ みのる	川 稔
代表取締役社長	山 下 正弘	した ひろ	山 正弘
取締役相談役	荻原 豊	おぎ ほう	荻原 豊
常務取締役	荻原 茂	おぎ ほう	荻原 茂
常務取締役	荻原 茂	おぎ ほう	荻原 茂
取締役	阿久津 賢二	あくとつ けんじ	阿久津 賢二
取締役	笹原 富弥	ささ はら とみ や	笹原 富弥
取締役	大野田 道郎	おお の た みち ろう	大野田 道郎
取締役	萩原 幸一郎	はぎ はら こういちろう	萩原 幸一郎
取締役(社外)	鹿内 徳行	しか ない のりゆき	鹿内 徳行
取締役(社外)	重松 健	しげまつ けん	重松 健
取締役(社外)	後藤 陽	ごとう とうやう	後藤 陽
常勤監査役	松本 春	まつもと はる	松本 春
常勤監査役	玉置 修吾	たまき しゅうご	玉置 修吾
監査役(社外)	小幡 雅二	お ばた まさじ	小幡 雅二
監査役(社外)	山 隆央	やま たかお	山 隆央
監査役(社外)	亀井 温裕	かめ い なおひろ	亀井 温裕

執行役員	伊藤 洋	いとう とうやう	伊藤 洋
上席執行役員	二井 康夫	にい けんお	二井 康夫
執行役員	小尾 紀行	お おび きこう	小尾 紀行
執行役員	橋爪 浩	はしづめ ひろし	橋爪 浩

## ▶ 過活動膀胱治療薬「ベオーバ®錠50mg」の製造販売承認取得

杏林製薬(株)は2018年9月21日、厚生労働省より、過活動膀胱治療薬「ベオーバ®錠50mg (以下「ベオーバ®錠」)」について製造販売承認を取得しました。

「ベオーバ®錠」の有効成分であるビベグロンは、米国メルク社により創製され、国内では杏林製薬(株)とキッセイ薬品工業(株)が共同で開発した過活動膀胱 (OAB) に対する1日1回投与の新規経口治療薬です。膀胱のβ3アドレナリン受容体を選択的に作用し、膀胱を弛緩させることで、蓄尿機能を高め、OABにおける尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁の症状を改善します。

杏林製薬(株)は泌尿器科を重点領域の一つに位置づけており、同領域での製品ラインナップ拡充とプレゼンス向上に取り組んでいます。今後は、本剤の早期市場浸透を図ることにより、OABの諸症状で苦しむ患者さんに新たな治療の選択肢を提供し、さらなる貢献を目指します。

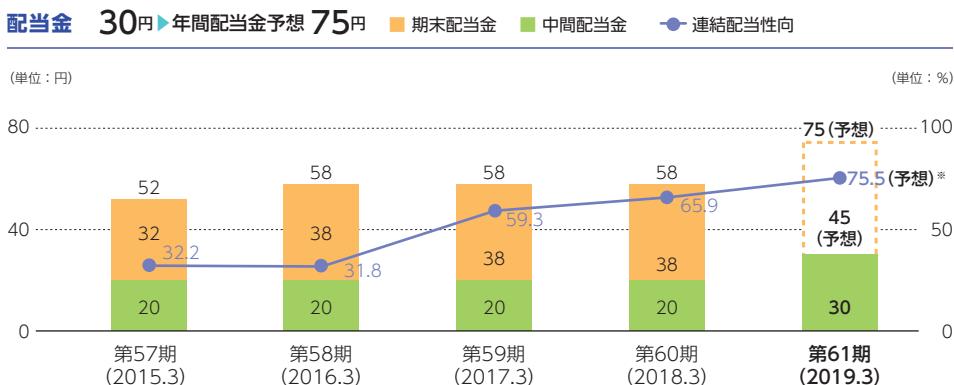


## ▶ 株主還元のさらなる拡充

今般、経営課題への対応により、業績の回復が一定程度、見通すことのできる状況を迎えたこと、及び当社財務基盤の現状を考慮して、資本の効率化及び株主価値のさらなる向上を図る政策に転換することとし、そのための取り組みの一つとして、株主還元を強化することにいたしました。

2018年7月31日開催の取締役会において、資本政策の基本方針及び株主還元策を変更し、健全な財務基盤を維持しつつ、成長投資と株主還元を通じて資本効率の向上を図ることとし、株主還元については、DOE (株主資本配当率) を勘案して、安定した配当を継続いたします。

この新株主還元策は、特別な経営環境の変化がない限り、今後も継続していく方針です。



\*第61期 連結配当性向については、2018年10月2日に実施した自己株式取得の影響を考慮しております。

## ■株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月に開催
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人 (特別口座管理機関)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
(お問合せ先)	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
お取扱店	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告掲載紙	日本経済新聞

### (ご注意)

1. 口座管理機関(証券会社等)の口座に株式をお預けの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、お取引の口座管理機関(証券会社等)が窓口となります。  
株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いできませんので  
ご注意願います。
2. 特別口座に記録された株式をお持ちの株主さまの場合  
住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、みずほ信託銀行証券代行部(株主メモ参照)にお問合せ願います。
3. 同封の「配当金計算書」は、確定申告の際の参考資料としてご利用  
いただけます。株式数比例配分方式を選択された株主さまにつきましては、お取引の証券会社にご確認ください。
4. 未受領の配当金につきましては、左記お取扱店(株主メモ参照)及び  
みずほ銀行本店・全国各支店で支払いいたします。

ホームページのご案内 <http://www.kyorin-gr.co.jp/>



株主の皆さまにタイムリーな情報をお届けいたしておりますのでぜひご覧ください。

### ホームページサイト

キョーリン製薬グループについて	企業理念・長期ビジョン、目指す企業像、中期経営計画 等
グループ事業	トップメッセージ、グループの歴史、グループの全体像、価値創造プロセス、事業の概要 等
株主・投資家情報	中期経営計画、研究開発パイプライン、財務・業績、IRライブラリ、株式情報 等
CSR活動、企業情報 等	

## 株主の皆さまの声をお聞かせください

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

 <https://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 4569

いいかぶ

検索



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から  
抽選で薄謝(図書カード500円)を  
進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media (イー・ツー・メディア) の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社a2mediaについての詳細 <https://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

- アンケートのお問合せ  
[e-株主リサーチ事務局]

TEL : 03-6779-9487 (平日 10:00~17:30)  
MAIL : info@e-kabunushi.com

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

〒101-8311

東京都千代田区神田駿河台4丁目6番地

TEL:03-3525-4700(代)



PROJECT-  
With the Earth

この冊子の印刷・製本に係るCO<sub>2</sub>は  
PROJECT- With the Earth を  
通じてオフセット(相殺)しています。

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォント  
を採用しています。

